防災重点農業用ため池ハザードマップの見方

◎はじめに

　農業用ため池は米作りにとって必要不可欠なものであり、田植えの時期、水量が少ない場合には争いが起こったり、夜間の見回りなど、水の確保は昔から苦労しております。

　全国には多くの農業用ため池がありますが、７０％を超えるため池が江戸時代以前に築造されたもので、ほとんどは昭和初期以前に築造されたものです。

　近年、地震や局地的な豪雨などの自然災害により、ため池の決壊も発生している事例があり、防災重点農業用ため池のハザードマップ（災害による被害を予測し被害範囲を地図化したもの）の作成が急がれております。

　自然災害に備え、防災重点農業用ため池ハザードマップを参考に迅速で安全な避難を心がけましょう。

◎防災重点農業用ため池ハザードマップの見方

* 1. 図の一番上に対象となるため池のタイトルが掲載なっております。図の中にため池の総貯水量ほか諸元があります。
  2. 図の中に対象となるため池とその周囲に黄色など色の塗りつぶしで表されております。こちらは、「凡例」にありますように、浸水範囲と最大浸水深を色別に表しております。色の塗りつぶしとなっている所は、浸水区域です。

他に、避難施設、ため池が決壊した場合の浸水の到達時間（分ごとに色分け破線）、流速が記載されております。

* 1. 「想定浸水深のめやす」‥人や車などで比較がしやすいようになっております。なお、浸水深が0.5m(大人の膝までつかる程度)で、流速が1.5m以上で歩行が困難となります。
  2. 「施設名・住所・電話番号・区分」‥避難施設等に関するものです。電話番号は空欄の場合があります。
  3. 「情報伝達経路」‥情報伝達には時間を要する場合もあるので、危険を感じた場合は、避難指示を待たずに避難を開始してください。
  4. 図中に吹き出しのコメントが入っている場合があります。注意事項などが記載されておりますので参考としてください。

|  |
| --- |
| 問合せ  農林振興課  TEL 0237-67-2114 |